

# 新型コロナウイルスワクチン集団接種会場フローチャート

## 受付事前準備処理

- 手指消毒検温チェック
- マスクの着用
- 持ち物の確認用意
  - 接種券
  - 予診票
  - 本人確認できるもの

- ワクチン接種来場者の案内・入場支援・手指消毒・検温チェック
- ※車椅子利用者及び必要な来場者の対応に配慮すること
- 足の不自由な方の移動補助（車椅子の準備・車椅子を押す支援等）

予約時間より早く来場し、受付を済ませようとする方が、多くいることが予想される。現在受け付けている予約枠を案内し、受付順番待ちの列に並びののを控えるようアナウンス、会場入り口で整理とソーシャルディスタンス、手指消毒、検温チェックを指導

- 時間待ちの方をテント内の配置されている椅子に座って時間まで待機を促す。

## ①会場入室前チェック (入口前) (入場整理・介助2名) (受付準備2名)

- 非接触体温計で検温、本人確認
- 接種券・予診票の氏名を確認（予診票の記載漏れチェック）
- 体温、年齢、性別、問診内容に回答済みかどうかを確認
- クリアフォルダーに接種券・予診票をセットし本人に返す。
- リーダー 受付人数をトランシーバーで入場待ちの停滞状況を報告

- 予診票の必要事項の記載漏れ有無、確認
- 問題なしの場合は受付へ誘導
- 記入漏れがあった場合は、記載台でボールペンで記入  
使用後は、消毒したものの順次と入れ替える（使用したボールペンの消毒）

## ①受付（入口） 受付票の発行（2名）

- 自動扉を越えて会場に入場

- 接種券のバーコードを読み取り、予約者の受付処理を行う。  
(注) 氏名と予約枠の確認を行いステータスを「予約済み」から「会場受付」の状態に変更する。
- 処理後受付票を発行（発行番号が会場受付の処理人数の確認の基礎となるので、接種準備するワクチン数量と随時調整を図ること！）

## ② 予診票確認 保健師（5名） 相談フォロー（1名） 接種誘導支援（2名）

- 予診票の記載内容のチェック、既往歴で注意の必要な接種希望者について、聞き取りにより内服薬、アレルギー体質等の有無を聞き取り、明示シール（※）をクリアフォルダーに貼る。
- 予診する医師へ連絡事項がない場合は、予診待ちレーンへ  
※最終責任者は医師。体調不調者は接種の可否判断を医師が担う  
※予診待ちレーンは、受付票の色ごとに分かれて待つ

## 接種相談フォロー 接種質問受付

- ワクチンの副反応等の相談対応

## ③ 予 診 (医師 2名)

- 接種の可否を判定し、接種可能者の予診票を看護師に回す
- 予診により接種不可の場合（予診のみ）は、接種記録へ
- 30分必要な人には、健康観察30分チェックを入れ
- ※各レーンの最終責任者は医師。体調不調者は医師の指示により対応
- ※車いす利用者は、接種コーナーに入らず、記録コーナー側へスルーし、車椅子接種コーナーで看護師を呼び出し接種。

# 接種コーナーの案内・接種・接種後の対応

③予診（医師）  
・予診後の誘導



・接種エリア支援  
誘導事務員 1名  
接移動補助 2名



④ワクチン接種  
（注射処置）  
（看護師 3名）



誘導事務員 1名  
接種補助者  
（看護師 2名）

## 接種コーナーの案内

※ 順番に誘導（受付票の色で分散させる。接種業務を分散させる）

### ○予診

- ・予診待ちの方を受付票の色順（青・黄・ピンク）で医師の予診ブースに案内し、問診を受けさせる。
- ・接種の可否を判定し、接種可能者の予診票を看護師に回す。
- ・予診により接種を受けない場合は、接種記録書担当へ
- ・30分必要な人には受付票に健康観察30分のチェックを入れる。
- ・事務：予診の終わった方を研修室（接種コーナー）への誘導案内する。

案内は 受付票の色別に青・黄・ピンク別レーンの空いている席のブース（ABCD）へ案内誘導

- ・接種色ごとの空いているレーンへ誘導（クリアフォルダーの明示シールを確認、右肩接種者は椅子の向きを反転させる介助を行う）

- ・看護師：接種可能者に対して接種（注射）する

明示シール「抗凝固」「アル禁」「右肩」等を確認し接種する

- ・抗凝固シールの対象者は、接種後1分間の押さえを指示し、タイマーを起動、アラームが鳴ってから退出することを伝える。
- ・事務員：アラームを停止させ、対象者の退出を促す。

※体調不調者は、直ちに救護スペースへ誘導するとともに、責任医師 竹澤医師・総括（中嶋）・保健師（下村）看護師（廣尾）に連絡。処置等を連携して行う。エマージェンシーコール

接種補助 接種者が接種席への移動や接種時の肩だし作業で、ワクチン接種作業に停滞が発生しないよう肩出し等の作業支援を行い、看護師がワクチン接種に専念できるよう補助支援する。

ワクチン調剤  
（薬剤師 2名）

- ・薬剤師：ワクチンを希釈、分注。7本取りができるシリンジであるため、基本1バイアルから7本取る。針の長いシリンジが必要な場合は、1バイアル分を6本取りし、対象のバイアル数とシリンジを分けて管理すること。（バイアルごとのとれた本数を表に記録しておくこと）

トレーに35本単位でシリンジセット接種人数とチェックしながら分注作業を進めていくこと。

- ・抽出済みのバイアルの残数と残量より追加確保できたシリンジ数を記録しながら進めること。

- ・ワクチン解凍からの経過時間に注意し、午前分は午前で処理できるよう調整できるよう注意して作業を行うこと。

- ・ワクチン解凍実施時間と残量の使用期限時間の確認・調整をしっかりと行うこと。
- ・午前、午後の接種数に合わせたワクチン解凍、分注処理を心がけること！

# 接種後の事務処理・業務フローチャート

接種後の処理

- 接種済み者と非接種者とが存在することから必ず確認すること
- 事務員：接種済者の証明書発行へ誘導案内（済証発行や次回予約で滞留するようであれば、予診待ちの担当者（看護師等）に連絡し、予診・接種コーナーへの案内を止めること。）

⑤ 接種済証発行  
(誘導 事務員1名)  
(証発行 事務員2名)

- 予診票に接種シール(ワクチン名、ロットNo.等)を貼り回収
- 接種記録書にシールを貼り、接種日、接種会場を記入し、本人に渡す。
- 接種が受けられなかった予診票は、「予診のみシール」を本人の接種券に添付し、予診票にはワクチンシールは貼らずに接種済み分と分けて保管すること。
- 接種時間による健康観察終了時間の記入（受付票）

⑥ ワクチン接種予約システムへの記録  
(記録事務 4名)

- 接種済証の処理を確認
- 接種券のバーコードを読み込み、1回目接種済のステータス変更を行う。接種できなかった場合は、「予診のみ」にステータス変更しシステムに記録する。
- 次回接種予約時間の予約申し込みを受け付ける  
※ファイザー社製ワクチン接種2回を前提で1回接種後の場合

⑦ 次回ワクチン接種予約枠の申し込み処理  
(⑥兼 事務員)

接種済・記録・予約を済ませた住民を健康観察エリアへ誘導

⑧ 健康観察  
(看護師 2名)  
(事務員 1名)

- 看護師：健康観察エリアで接種した住民の健康状態について経過観察を行う

- 接種時刻から15分健康観察見守り（受付票で確認の上退出）
- 薬剤やワクチンによる重度のアレルギー既往のある方は30分間
- 体調不調者は医師に連絡

⑨ 会場退出者のチェック  
(事務員 1名)

体調異常者の早期発見・医師への連絡、処置の依頼および消防署への搬送依頼  
(看護師)

⑩ 送迎バスの案内  
(事務員 1名)

帰宅バス便の時間の案内と待機場所への誘導

⑪ 帰宅者誘導  
(事務員 1名)

# 接種後の副反応の緊急初動対応時マニュアル

## 参考：アナフィラキシー症状の初期対応

引用：アナフィラキシーガイドラインP13  
2014年11月1日発行

### ■ 初期対応の手順

#### 1 バイタルサインの確認

循環、気道、呼吸、意識状態、皮膚、体重を評価する。



#### 2 助けを呼ぶ

可能なら蘇生チーム(院内)または救急隊(地域)。



#### 3 アドレナリンの筋肉注射

0.01mg/kg (最大量：成人0.5mg、小児0.3mg)、必要に応じて5～15分毎に再投与する。



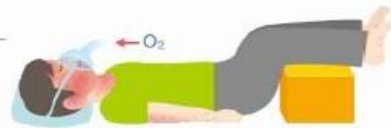
#### 4 患者を仰臥位にする

仰向けにして30cm程度足を高くする。  
呼吸が苦しいときは少し上体を起こす。  
嘔吐しているときは顔を横向きにする。  
突然立ち上がったたり座ったりした場合、数秒で急変することがある。



#### 5 酸素投与

必要な場合、フェイスマスクか経鼻エアウェイで高流量(6～8L/分)の酸素投与を行う。



#### 6 静脈ルート確保

必要に応じて0.9% (等張/生理) 食塩水を5～10分間に成人なら5～10ml/kg、小児なら10ml/kg投与する。



#### 7 心肺蘇生

必要に応じて胸部圧迫法で心肺蘇生を行う。



#### 8 バイタル測定

頻回かつ定期的に患者の血圧、脈拍、呼吸状態、酸素化を評価する。



● 副反応の緊急対応時（救急隊 119  
を呼んだ際）

- 対象者の接種情報として予診票の写しを申し送りの際に渡すこと！

（名前、生年月日、既往歴・ワクチンロットNo.・服用薬等がわかる資料）